

令和7年度 学校評価報告書
小樽市立銭函小学校
校長 大山 倫生

【評価】 数値目標に対する達成度を、以下の基準で評価することを基本とする。
A: 100%以上 / B: 80%以上100%未満 / C: 80%未満

※ 評価する際には、学校関係者と密接な連携をとり、単に数値の達成率を見るだけでなく、目標達成に向けたプロセスや、児童生徒の成長の度合い、具体的な取組の内容などを総合的に評価すること。

1 本年度の重点目標

進んでかかわり、ともに鍛える銭小の子の育成
■【凡事徹底】基礎・基本を大切にし、確実に身に付け子ども(知識・技能)
■【自他理解】自他を理解し、しっかり考えて伝える子ども(思考力・判断力・表現力)
■【連携協働】学びを活かし、仲間とともに高め合う子ども(学びに向かう力・人間性)

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況・達成状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	国語科、算数科の単元テストにおいて、各学年の平均正答率を70%以上にする。	A	読み・書き・計算といった基礎学力の確実な定着を目指して授業づくりを行ってきた。全校での平均正答率は、国語科が前期78.2%、後期78.8%で算数科が前期75.1%、後期75.9%と目標を達成している。学年ごとに見ると、国語科で全学年が目標を達成しており、算数科では前期は2学年が69%、4学年が67.5%と目標を下回ったが、後期は全学年が目標を達成した。	◎
	特別支援教育の充実	校内支援委員会を年4回開催し、特別支援学級及び通常学級で支援を要する児童の「個別の指導計画」の短期目標や方策等を見直し、指導の充実に資する。	A	4月、6月、10月、2月と年4回の校内支援委員会を開催し、学期毎に「個別の指導計画」の評価をするとともに新たな支援策を検討した。また、保護者からの教育相談や通常学級に在籍する教育支援を要する児童に関わる対応についても臨時的委員会を計3回開催した。	◎
	国際理解教育の充実	児童アンケートで「外国語活動及び外国語の勉強が好き」と肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	B	・3, 4年生は退職人材外部講師による外国語活動を週1回、高学年を中心に全学年でALT(外国語指導助手)による外国語授業を月1回程度実施している。 ・3～6学年の肯定的に回答する児童の割合は67.9%となり、目標を2.1ポイント下回った。「外国語活動及び外国語の勉強が大切だと思う」と肯定的に回答した児童は87.7%と高かった。	◎
	理数教育の充実	児童アンケートで「算数科・理科の勉強が好き」と肯定的に回答する児童の割合を75%以上にする。	B	・算数科の習熟度別学習や理科の実体験を伴う授業と、各教科のデジタル端末を活用した授業とを、単元の内容に応じて使い分けをすることにより、児童のわかる、できる、楽しいの実感の向上を図った。 ・肯定的に回答する児童の割合は、算数科では77.5%と数値目標を上回り、理科では66.0%と数値目標を9ポイント程度下回った。	◎
	情報教育の充実	児童アンケートで「勉強時間、クロームブックを使って学習に取り組んでいる」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	A	校内研修をとおしてクロームブックを効果的に活用できる授業場面を意識した授業づくりを目指してきたことにより、「勉強時間、クロームブックを使って学習に取り組んでいる」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で93.7%と数値目標を上回った。学年ごとにみても、すべて90%の数値目標を上回っていた。	◎
	キャリア教育の充実	児童アンケートで「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	A	全学年で「銭函テラス」、「一正蒲鉾」、「新宮商行」等の施設見学や能開大によるプログラミング教室等の地域の施設や人材を生かした学習を進めたことにより、「将来の夢や目標をもっている」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で86.2%と数値目標を上回った。学年ごとにみると数値目標を下回る学年もあるが、どの学年も肯定的な回答が80%を上回っていた。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動(外国語)の学習では、ALTとの交流や体験型のアクティビティ等を通して、「自分の言葉が通じた!」「相手のことがわかった!」という成功体験を増やしていく。 ・理科では、「予想通りにいかない面白さ」を大切にし、探究心を刺激する学習を通して、予想が外れても「新しい発見のきっかけになったね」と肯定し、科学的な思考そのものを楽しむ授業づくり心がける。 				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・誰が担任になっても学年が上がるにつれ着実に力を積み上げられるよう、学習習慣(宿題・読書等)の定着に向けた取組を確実に進めてほしい。 ・漢字指導等の評価基準についても、学校全体で統一感のある、質の高い指導を徹底してほしい。 ・書写の学習では、文字を書く楽しさを味わわせ、漢字の学習につなげてほしい。また、書道に堪能な保護者による学習サポートがあってもよい。 				

2	豊かな心の育成	道徳教育の充実	児童アンケートで「自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	A	本校の重点目標である「進んでかかわり、ともに鍛える銭小の子」の育成に向けて、基礎学力を大切にしながらも、協働的な学びや探究的な学びを通じて、児童が主体的に成長していく姿を目指していくことにより、「自分にはよいところがあると思う」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で89.7%と数値目標を上回った。学年ごとにみると、学年が上がるごとに数値が下がる傾向があるが、どの学年も肯定的な回答が80%を上回っていた。	◎
		ふるさと教育の充実	児童アンケートで「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	A	低学年による地域の探索や中・高学年の総合的な学習の時間で「地域」や「福祉」、「伝統」、「文化」等をテーマにした探究的な学習を進めることにより、肯定的に回答する児童の割合は、全校で81.4%と数値目標を上回った。学年ごとにみると、高学年で80%を下回っていた。	◎
		読書活動の推進	児童アンケートで「本を読むことが好き」と肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。	A	朝読書の取組のほか、市立図書館と連携してブックフェスティバルを開催したり、「おひさまはらっば」による低学年を中心とした朝の読み聞かせ活動を実施したことにより、「本を読むことが好き」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で71.9%と数値目標を上回った。学年ごとにみると、1学年83.0%、2学年86.4%、3学年64.9%、4学年76.0%、5学年62.6%、6学年51.4%となり、学年が上がるごとに数値が下がる傾向が見られた。	◎
		体験活動の推進	地域の自然や人材、施設等を生かした学習を、全学年、年5回以上行う。	A	9月の全校縦割り班による星観緑地での自然体験遠足、また、低学年では校区内の公園探索や市立図書館等の施設訪問、中学年では銭函駅や松泉学院の花壇苗植え活動への参加、4・5年生では道新記者による出前授業、6年生はえびす島の地層見学等、銭函地区の教育資源や人材を最大限活用した学習を実施した。	◎
		コミュニケーション能力の育成	児童アンケートで「友達と話し合っ、自分の考えを深めたり広げたりしている」と肯定的に回答する児童の割合を85%以上にする。	A	校内研修等で学びを確かなものにし、考えを深める場の設定を意識した授業づくりを進めてきたことにより、「友達と話し合っ、自分の考えを深めたり広げたりしている」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で85.4%と数値目標を上回った。学年ごとにみると、1学年97.9%、2学年95.5%、3学年78.4%、4学年74.0%、5学年87.5%、6学年77.1%となり、学年が上がるごとに数値が下がる傾向が見られた。	◎
		いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	児童アンケートで「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と肯定的に回答する児童の割合を100%にする。	B	・全職員が様々な場面で「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」との意識で指導を行ったことに加え、児童会が中心となっていじめ防止の呼びかけ等の取組を行った。 ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と回答した児童の割合は全校で93.2%と数値目標を6.8ポイント下回った。1・2学年では肯定的な回答が100%だったが、3～6学年で「よく分からない」と回答した児童が4.5%いるなど、肯定的な回答が100%を下回った。	◎
		改善方策	・「いじめは、どんな理由があってもいけない」という価値観を定着させるために、特別の教科道徳の学習を通して、体験や物語をもとに「もし自分だったら」と自分事として捉えたり、いじめを許さない空気(集団の質)を高め「傍観者」から「仲裁者・通報者」へ集団の意識を変える取組を進めたりしていく。			
学校関係者 評価委員による 意見	・地域の方々との直接的な交流や体験学習をさらに充実させ、コミュニケーションの力を育む機会を増やしてほしい。 ・道徳等の授業を通じ、自他の「命の大切さ」を深く学ぶ教育を継続して大切にしてほしい。					

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価	
			評価	取組状況・達成状況		
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	児童アンケートで「体育の授業は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。	B	・銭函中学校や桂岡小学校の体育専科教諭と連携し、運動領域や運動特性に合わせた導入運動や個々の運動能力に合わせた個別指導等を行った。 ・「体育科の授業は楽しい」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で88.1%と数値目標を1.9ポイント下回った。学年ごとにみると、学年が上がるごとに数値が下がる傾向があるが、どの学年も肯定的な回答が80%を上回っていた。	◎
		食育の推進	児童アンケートで「毎日、朝ご飯を食べている」と肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。	B	児童及び保護者に栄養教諭の食育授業や保健だより等で朝食摂取の重要性を継続的に伝え、児童と保護者の朝食摂取に対する意識を高める取組を進めた。「毎日、朝ご飯を食べている」と肯定的に回答する児童の割合は、全校で93.3%と数値目標を1.7ポイント下回ったが、昨年度と比べると0.1ポイント上回っている。学年ごとにみると数値目標を下回る学年もあるが、どの学年も肯定的な回答が87%を上回っていた。	◎
		健康教育の充実	児童アンケートで「学校がある日は、早寝・早起きしている」と肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。	A	特別活動や生活科、保健の時間等で、脳や体の成長と睡眠の関係を学習したほか、保健だよりで睡眠のメカニズムを伝えている。肯定的に回答する児童の割合は、全校で79.4%と数値目標を0.6ポイント下回った。学年ごとにみると数値目標を下回る学年もあるが、どの学年も肯定的な回答が70%を上回っていた。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな体を育成するために、小樽市小中学校体力向上検討委員会作成の資料を活用しながら、運動が得意な子も苦手な子も、体を動かす楽しさを実感できる活動や、保健だより等を通して「早寝・早起き・朝ご飯」の徹底を図る取組を、今後も進めていく。 ・生活習慣スケジュール表を活用し、保護者会等で朝食摂取率を共有し家庭との連携を一層図り、3学期の朝食を食べる児童の割合を95%以上にすることを目標に取り組む。 					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・体育の授業を中心に、体を動かす楽しさを実感できる機会を増やしてほしい。 ・生活習慣の改善について、学校からの発信を強化するとともに、PTA事務局とも連携し、保護者の視点に立った啓発活動(全体懇談会での共有等)を進めていきたい。 					
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケートで「お子さんに宿題や音読、家庭学習を行うよう促している」と肯定的に回答する保護者の割合を95%以上にする。	A	・児童アンケートの結果から児童の生活習慣について、保護者会や個人面談で保護者と共有することで家庭と学校との連携を図った。 ・肯定的に回答する保護者の割合は、全校で98.0%と数値目標を上回った。	◎
		学校と地域の連携・協働の推進	保護者アンケートで「学校は、安全・安心を守るために、保護者や地域と連携している」と肯定的に回答する保護者の割合を90%以上にする。	A	今年度からPTA活動をサポーター制に切り替え、登下校の見守りやプール学習、スキー学習等の安全確保に参加を呼びかけたところ、昨年よりも多くの保護者の参加が見られた。「学校は、安全・安心を守るために、保護者や地域と連携している」と肯定的に回答する保護者の割合は、全校で87.7%と数値目標を2.3ポイント下回った。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・今後もPTAやCSの活動を通じて、保護者間のつながり、地域のつながり、家庭の教育力を高める取組を進めていく。 					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが主体的に学習に取り組めるよう、学校だけでなくPTAからも啓発していく必要がある。 ・学校と地域の連携・協働の推進については、今年度は多くの保護者の協力を得られているので、目標を下回っているが「A」でよい。 					

5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	教職員アンケートで「9年間の子どもの学び・成長を見据えた小中一貫教育を推進している」と肯定的に回答する教職員の割合を60%にする。	A	小中連携の専科加配教員による授業や、今年度は年2回に増やした小中合同の研修会への参加など、4校の教員がお互いの課題を共有する機会をもっている。肯定的に回答する教職員の割合は、61.9%と数値目標を上回った。	◎
		教育環境の整備・充実	保護者アンケートで「学校は、教育環境の整備・充実に努めている」と肯定的に回答する保護者の割合を80%以上にする。	A	「1人1台端末」の活用場面を保護者参観日に公開したり、体育館照明のLED化など施設改善の様子を学校だより等で知らせている。「学校は、教育環境の整備・充実に努めている」と肯定的に回答する保護者の割合は、全校で81.2%と数値目標を上回った。	◎
		教職員の資質・能力の向上	教職員アンケートで「学力向上に組織的に取り組むことができた」と肯定的に回答する教職員の割合を70%以上にする。	A	研究部の学力向上係を中心に学力の実態把握及び分析等を行い、学力向上に関わる教育活動の充実に努めてきたことで、「学力向上に組織的に取り組むことができた」と肯定的に回答する教職員の割合は、81.0%と数値目標を上回った。	◎
		学校運営の改善	教職員アンケートで「昨年度の成果や課題を生かし、校務分掌など改善を図っている」と肯定的に回答する教職員の割合を80%以上にする。	A	分掌部会や企画運営委員会、職員会議等で分掌業務や行事等の改善を進めてきたことで、「昨年度の成果や課題を生かし、校務分掌など改善を図っている」と肯定的に回答する教職員の割合は、97.3%と数値目標を上回った。	◎
		学校安全教育の充実	交通安全教室や防犯教室、情報モラル教室など、外部講師を招いた授業を全学年で年1回以上実施する。	A	4月の小樽警察署(銭函交番)による1、2年生を対象とした交通安全教室、全学年を対象とした情報モラル教室(人権教室含む)、小樽警察署による防犯教室を実施した。	◎
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現に向けて、近隣の小中学校との連携をさらに進めていくほか、新年度の入学児童がスムーズに学校生活をスタートできるよう、本校職員が幼稚園や保育所等へ訪問し活動の様子を見学したり、幼保の職員や子どもたちに小学校の授業参観に来てもらう活動を今後も続けていく。 					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・通学路や学校周辺の除雪をはじめ、子どもたちが安全・安心に学べる環境の維持・充実に、今後も努めてほしい。 ・自転車に安全に乗るために、横断歩道は押して渡ることやヘルメットを着用することなど、ルールをしっかり指導してほしい。 					
社会教育に関連する目標(目標6～8)		(目標8) 運河ロードレースなどスポーツイベント等への参加促進を図る。 < 運河ロードレースへの参加 10名以上を目標 >	A	今年度もPTA事務局を中心に運河ロードレース当日や練習のサポートをお願いするとともに、事前の練習を含めた参加呼びかけを行ったことで、運河ロードレースへの参加児童が31名となり、数値目標を上回った。	◎	
改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・次年度も小樽市のスポーツイベント等に向けたPTA事務局との協力体制を継続していき、PTA活動の一環として取組を広げていきたい。 					
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA事務局との連携を進め、「小樽運河ロードレース」や「潮ねりこみ」といった全市的な行事への参加促進を計画していくことで、子どもたちが地域の一員として活躍する機会を広げてほしい。 					